



まずは「勉強」の秋です

2学期が始まり、今日は早速、1・2年生は「夏休み課題テスト」、3年生は「第2回学習の診断」がありました。体育祭が春に移行したため、それまでに比べて比較的ゆとりのある9月を迎えることができます。合唱コンクール、五色台集団宿泊学習などの行事もありますが、まずはしっかりと勉強することが大切です。

1学期の終業式で、「3年生は、進路を見すえた半端ではなく徹底的な勉強をすること」「1・2年生は、勉強と部活動をがんばること。勉強の第1は、出された宿題をすべて自分の力でやり切る。部活動では、3年生が抜けた穴を確実に埋められるよう一人一人が力をつける」ということを、夏休みの目標としてみなさんにお願しました。きちんと達成できましたか。自分自身に力がついたと実感できていますか。

さて、この目標の中で全学年に共通していることは「勉強」です。「勉強する効果とは何か?」。それは「勉強すればたくさんを知ることができる」ということです。はっきり言って、社会に出て、ものを知らなかったら、確実にバカにされます。簡単に利用されたり、だまされたりすることもあるでしょう。でも、ものを知っていれば、それを言葉として平和的に話し合いで解決することができます。そう考えると、勉強は「社会で自分が自分らしく生き抜くためのひとつの武器である」と思います。かなり攻撃的な考え方ではありますが、「これもあり」だと思います。こういう考え方も参考にして、苦手教科を克服し、得意教科をさらに伸ばし、自分に「学力」という力がたまっていくのを実感できる2学期にしてほしいと思います。そうでなければ、ただただ長いだけの、何の充実感もない4か月になります。(始業式式辞)

がんばれ元気

大好きな漫画のタイトルです。私が大学生の頃「少年サンデー」に連載されていたもので、毎週楽しみにしていました。連載終了後、29巻全部買いそろえました。TVでも放映されました。

主人公の堀口元気は、生まれてすぐ母に死なれ、プロボクサーの父と2人だけの貧しい生活を過ごしていました。しかし、「父ちゃんは必ず世界チャンピオンになる」と信じ、また自分も父と同じように、プロボクサーになって世界チャンピオンになるという大きな夢を持っていました。ところが、父は19歳の若いボクサー関拳児との試合で頭を打ち、試合後に死んでしまいます。その時、元気はわずか5歳でした。

しかし、元気は一人ぼっちになっても、父が果たせなかった夢を絶対に果たすんだという強い気持ちを持ち続けていたため、どんな困難にも負けることなく、ついに19歳で念願の世界タイトルマッチを戦います。そしてその相手が、ずっと目標にしてきたあこがれの関拳児でした。亡くなった父や多くの仲間の愛に包まれながら、この日のために生きてきたといってもいい元気は、関の強烈なパンチに耐え、ついに12回ノックアウトで関を破り、念願の世界チャンピオンの座に就きます。少年の頃から世界チャンピオンという夢を目指して、傷つきながらも元気に生きてきた堀口元気の姿に心を打たれました。

『元気だから声を出すのではない。声を出すから元気になる』。私の大好きなこの言葉を口ずさむたびに、堀口元気の姿を思い出し、新たな力が湧いてきます。

【アメリカ体験記②】 朝起きると、今日の予定についての質問を受けた。もちろん英語である。事前に私がジョギングをしたいことを伝えていたからか、「2時間かけてマラソンするか」と聞かれた。長旅の疲れも残っているので、いきなり2時間も走れないと思い、「1時間ならOK」と答えると「それは無理」と言う。「なんで?」と思いつつ、話を進めていくと、どうやら私が「マラソン」と思い込んでいたのは、ウィスコンシン州の首都「マディソン」のことらしい。「2時間かけてマディソンへ行くか」と聞かれて、「1時間で行く」なんて無茶なことを言ったことになる。少し恥ずかしくなった。

午後、ジェニファーに再会した。いきなり「カップセンセイ、ゲンキ」と日本語で言ってきた。当時の私のニックネームが「カップ」であり、そのことをいまだに覚えているのには驚いた。さらに、「ハラヘッタ?」と聞いてくる。そんな下品な日本はだれに教えられたのかと聞くと、再び「カップセンセイ」。う～ん、全く記憶にない。若い頃の私は言葉遣いが悪かったのだと反省した。それ以後、ジェニファーのお母さんも面白がって「カップ」と言ってくる。ワウパカで「Wow KAPPA」になった。でも、こんな些細なことから、緊張が少しずつほぐれていくのを感じた。コミュニケーションの力は大きい。(続く)